

地球・資源分野 JABEE 認定プログラム情報交換会議 開催報告

地球・資源分野 JABEE 委員会では、分野に属する 9 つの JABEE 認定プログラム教育機関における工夫点や課題などの情報交換を行うための会議を下記要領で開催しました。

これまで、継続審査や委員会において個別に情報交換を行うことはありましたが、各教育機関が一堂に会してそれぞれの実態を報告することは今回が初めてでした。

会議には、日本技術者教育認定機構（JABEE）からお二人が参加され、会議の感想を述べていただきました。また、日本大学文理学部地球科学科より会場や OA 機器の無償提供や会議運営へのご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

会議では、まず、増田委員長から「地球・資源分野 JABEE 委員会の活動と最近の JABEE の動向」についての説明があり、続いて 9 つの各教育機関から実態報告がありました。教育機関毎にさまざまな工夫点や課題が報告され、社会の要求を把握するための施策や学習・教育到達目標を周知するための方策などはとても興味深いものでした。とくに近年減少している学科運営費を補うためにいくつかの教育機関ではユニークな方法で資金調達を行っており、総合討論でさらに詳しい説明と今後の取り組みについて議論されました。

一方、共通の課題として前述の減少する学科運営費に加え、教員の減少が挙げられました。教員の減少は教育の質を確保する難しさに加え、JABEE の認証プログラムを継続するための人材減少につながります。会議では即効性のある解決策は見出せませんでした。各教育機関のさらなる連携で対応することなどが議論されました。

総合討論のもう一つのテーマは、大学の内部質保証のとりくみに、分野で既に第三者ピアレビューと運用している JABEE を分野別質保証の指標としてもらいたいという提案です。文部科学省にどのようにアピールするかなど現実的な課題はありますが、JABEE として取り組んでいただきたいテーマです。

お互い有意義な情報を共有できたことから、今後もこのような情報共有を進めていく必要があることを確認して会議は終了しました。また、その後の有志による懇親会で、更なる議論が続いたことは言うまでもありません。

参加いただきました各教育機関、JABEE 機構、本委員会の関係者に深く感謝し、開催報告といたします。

地球・資源分野 JABEE 委員会 委員・幹事 佐々木和彦

地球・資源分野 JABEE 認定プログラム情報交換会議概要

- 開催日時：2024 年 11 月 25 日（月）13：30～17：40
- 開催場所：日本大学文理学部 8 号館（地球科学科）1 階 レクチャーホール
〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40
- 開催形式：対面とオンラインによるハイブリット方式
- 開催目的：当分野では審査協力や情報発信を進めているが、分野に属する JABEE 認定プログラムの

各教育機関における工夫点や課題などの情報交換が不足しているため、各教育機関での取り組みや運営上の課題などの情報交換を行うこととする。この結果、各認定プログラムの更なる質の向上を図り、当分野における新規参入の教育機関が増加するための基礎情報に資するものとした。

●参加の教育機関：地球・資源分野 JABEE 認定プログラム運営教育機関の 9 機関（認定年度順）

- ① 島根大学 総合理工学部 地球科学科
- ② 東京都立大学 都市環境学部 都市環境学科 地理環境コース
- ③ 日本大学 文理学部 地球科学科 地球環境学プログラム
- ④ 北海道大学 工学部 環境社会工学科 資源循環システムコース
- ⑤ 山口大学 理学部 地球圏システム科学科 地域環境科学コース
- ⑥ 茨城大学 理学部 理学科 地球環境科学コース地球科学技術者養成プログラム
- ⑦ 千葉大学 理学部 地球科学科
- ⑧ 新潟大学 理学部 理学科 地質科学プログラム地質エンジニアリングコース
- ⑨ 富山大学 都市デザイン学部 地球システム科学科

●参加者：

対面参加 15 名、オンライン参加 11 名の計 26 名

●式次第：

会議の次第は以下のとおりである。

司会：本委員会委員・幹事 佐々木和彦（佐々木技術士事務所）

13：30～13：35 開会挨拶：本委員会委員長 増田昌敬（東京大学名誉教授）

13：35～13：55 地球・資源分野 JABEE 委員会の活動概要、最近の JABEE の動向：
本委員会委員長 増田昌敬（東京大学名誉教授）

13：55～14：55 各教育機関からの報告（1）

- ① 島根大学（向吉秀樹 准教授 本委員会委員）
- ② 東京都立大学（鈴木毅彦 教授 本委員会委員：オンライン）
- ③ 日本大学（竹内真司 教授 本委員・幹事）
- ④ 北海道大学（廣吉直樹 教授 本委員会委員・幹事）

14：55～15：05 休憩

15：05～16：20 各教育機関からの報告（2）

- ⑤ 山口大学（坂口有人 教授：本委員会委員）
- ⑥ 茨城大学（長谷川健 教授）
- ⑦ 千葉大学（亀尾浩司 教授 本委員会委員：オンライン）
- ⑧ 新潟大学（栗原敏之 教授）
- ⑨ 富山大学（立石 良 准教授）

16：20～16：30 休憩

16：30～17：20 総合討論 座長：本委員会委員 坂口有人（山口大学教授）

- ① 減少する学科運営費を補填する資金調達について
話題提供

- ・富山大学における地元協会からの学科協力金（立石 良 准教授）
- ・山口大学におけるキャリア教育に関わる寄附金（坂口有人 教授）
- ・島根大学における地元協会からの奨学金（向吉秀樹 准教授）
- ・北海道大学におけるコンソーシアム協賛企業・団体からの資金や人材提供
（廣吉直樹 教授）

② 分野別質保証を共通指標の評価項目に
話題提供

- ・坂口有人座長

17：20～17：30 来賓感想：日本技術者教育認定機構（JABEE）飯田和弘様(審査部担当部長)

17：30～17：40 閉会挨拶：本委員会委員・幹事 竹内真司（日本大学教授）

- 懇親会：会議終了後、18時から20時まで日本大学文理学部3号館の食堂にて、有志13名による懇親会を開催した。

以上

●別添資料

- （1）参加者名簿
- （2）会議風景写真
- （3）増田委員長の「委員会の活動概要、最近のJABEEの動向」
- （4）各教育機関からの報告（各機関の資料のトップページを添付）
- （5）坂口委員の総合討論での話題提供資料

地球・資源分野JABEE認定プログラム情報交換会議（2024年11月25日） 参加者名簿

所属	氏名・役職	対面	オンライン	懇親会	備考
島根大学	向吉秀樹 准教授	●		●	地球・資源分野JABEE委員会 委員
	林 広樹 教授		◎		
東京都立大学	鈴木毅彦 教授		◎		地球・資源分野JABEE委員会 委員
	松山 洋 教授		◎		
	飯島 慈裕 教授		◎		
日本大学	竹内真司 教授	●		●	地球・資源分野JABEE委員会 委員・幹事
	安井真也 教授		◎		
	山中 勝 教授	●			
	中尾有利子 准教授	●		●	
	長田充弘 助手	●		●	
北海道大学	廣吉直樹 教授	●			地球・資源分野JABEE委員会 委員・幹事
山口大学	坂口有人 教授	●		●	地球・資源分野JABEE委員会 委員
	太田岳洋 教授	●		●	
	大和田正明 教授		◎		
茨城大学	長谷川健 教授	●		●	
	細井 淳 助教		◎		
千葉大学	亀尾浩司 教授		◎		地球・資源分野JABEE委員会 委員
新潟大学	栗原敏之 教授	●		●	
	栗田 裕司 准教授		◎		
富山大学	立石 良 准教授	●		●	
JABEE機構	大野正志郎 担当部長	●		●	
	飯田和弘 担当部長	●		●	
地球・資源分野 JABEE委員会	増田昌敬 委員長	●		●	
	佐々木和彦 委員・幹事	●		●	
	小俣雅志 委員		◎		
	清水公二 監事		◎		
計		15	11	13	

地球・資源分野 JABEE 認定プログラム情報交換会議(2024 年 11 月 25 日) 会議風景



▲写真-1 開会風景



▲写真-2 増田委員長開会挨拶



▲写真-3 JABEE 飯田部長感想講評



▲写真-4 会議終了後の有志による懇親会風景

地球・資源分野JABEE認定プログラム情報交換会議

2024年11月25日

@日本大学文理学部8号館1階レクチャーホール

開会の挨拶

一 委員会の活動と最近のJABEEの動向

地球・資源分野JABEE委員会

委員長 増田 昌敬

地球・資源分野JABEE委員会(任意団体: 2022年4月～)

Website: <https://www.geojabee.jp/> ← JABBE 地球資源で検索

地球・資源分野JABEE委員会

地球・資源分野JABEE委員会とは JABEEとは

お問い合わせ

地球・資源分野JABEE委員会とは



- [委員長挨拶](#)
- [委員会の目的](#)
- [委員会の構成](#)
- [沿革](#)
- [委員会規則](#)

詳細はこちら

JABEEとは



- [JABEE](#)
- [地球・資源分野の認定プログラム](#)

詳細はこちら

地球・資源分野JABEE委員会の目的

委員会の目的

一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)の地球・資源および関連のエンジニアリング分野について、主に以下の活動を行う

1. JABEEの地球・資源分野における技術者教育プログラムの普及・啓発
2. 地球・資源分野における技術者教育プログラムの審査
3. JABEE運営への協力(理事候補者、認定・審査調整委員会委員候補者、基準総合調整委員会委員候補者、フェロー候補者の推薦など)

地球・資源分野での大学教育の質保証と有能な人材輩出

現代社会は、気候変動の影響によって自然災害が多発する一方で、カーボンニュートラル達成に向けての社会システムの変革が要請されており、日本・世界は難しい問題に直面している。この問題を解決するために、当分野では、21世紀のキーワードは「資源・エネルギー」と「地球環境」であるという認識に立って、地圏の開発、地域社会と減災、エネルギー・鉱物資源開発、資源循環経済などの領域に専門性を深めたプロフェッショナルエンジニアの育成において、今後の社会システムの変革にも対応できるデザイン能力を有する技術者・研究者の育成を目標とする。

本委員会の沿革 (1999年11月JABEE発足後)

- 2001年 地球・資源およびその関連分野の運営委員会が設置される
 - 運営は一般社団法人資源・素材学会を幹事学会とし、一般社団法人日本応用地質学会、公益社団法人日本地下水学会および一般社団法人日本地質学会が協力
 - 2001年～2002年度に、5大学でJABEE認定試行審査を実施
島根大学総合理工学部地球資源環境学科
秋田大学工学資源学部地球資源学科(資源システム工学コース、応用地球科学コース)
北海道大学工学部資源開発工学科
大阪市立大学理学部地球学科地球システム課程
東京都立大学理学部地理学科
 - 2003年～ 認定プログラムの新規申請、その審査が開始され、2022年度までに12大学、延べ49回の審査(新規、中間、継続審査)を実施
- 2022年度～ 構成4学会が共同して運営する「地球・資源分野JABEE委員会」に組織改編し、現在に至る

※ JABEE地球・資源分野運営委員会の資料については資源・素材学会のWebsite <https://www.mmij.or.jp/other/jabee> を参照

現在の委員会の構成

会員(構成4学会)

- 一般社団法人資源・素材学会
- 一般社団法人日本応用地質学会
- 公益社団法人日本地下水学会
- 一般社団法人日本地質学会

運営委員15名・監事2名

委員の改選:構成学会がそれぞれに所属するものの中から推薦して、運営委員会にて選出

事務局

一般社団法人資源・素材学会事務局内に置かれた「地球・資源分野JABEE委員会事務局」

JABEEおよび構成学会と本委員会との連携事務、および本委員会の運営事務

地球・資源分野JABEE委員会 委員・監事(2024-2025年度)

番号	役職	氏名	所属	推薦学会・団体
1	委員長	増田昌敬	東京大学名誉教授	資源・素材学会
2	副委員長	徳永朋祥	東京大学	日本応用地質学会
3	委員・幹事	佐々木和彦	佐々木技術士事務所	日本地質学会
4	委員・幹事	竹内真司	日本大学	日本応用地質学会
5	委員・幹事	廣吉直樹	北海道大学	資源・素材学会
6	委員・幹事	丸井敦尚	国立研究開発法人産業技術総合研究所	日本地下水学会、資源・素材学会
7	委員	小俣雅志	株式会社パスコ	日本応用地質学会
8	委員	亀尾浩司	千葉大学	日本地質学会
9	委員	坂口有人	山口大学	日本地質学会
10	委員	島田英樹	九州大学	資源・素材学会
11	委員	杉田文	千葉商科大学	日本地下水学会
12	委員	鈴木毅彦	東京都立大学	地球・資源分野JABEE委員会
13	委員	杉津雄治	石灰石鉱業協会	資源・素材学会
14	委員	細谷卓志	中央開発株式会社	日本地質学会
15	委員	向吉秀樹	島根大学(増本 清委員の後任:2024年10月1日より)	地球・資源分野JABEE委員会
16	監事	亀高正男	大日本ダイヤコンサルタント株式会社	日本地質学会
17	監事	清水公二	株式会社ニュージェック	日本応用地質学会

最近の活動実績

- **2022年度(2022.4～2024.3)**
 - 新体制での運営開始(Websiteや諸規則の整備、今後の活動・予算の検討など)、3プログラムの審査業務(新規1、継続1、中間1)
- **2023年度(2023.4～2024.3)**
 - 3回の運営委員会を開催(前年度の事業報告・決算、本年度の事業計画・予算案の審議、今後の認定審査プログラムの審査員推薦、分野審査報告書の作成・審議、次年度の審査スケジュールなど)
 - 1プログラムの審査業務(継続1)
 - Websiteに構成学会の活動などをリンクで紹介
 - ✓ [第9回 応用地質技術入門講座](#) (2023.5.15-5.17)
 - ✓ [日本応用地質学会 令和5年度 技術者倫理講習会](#) (2024.1.16)
 - ✓ [日本地質学会第4回JABEEオンラインシンポジウム](#) (2024.3.3)
- **2024年度(2024.4～現在)**
 - 2プログラムの認定審査業務(継続2)
 - 啓発・宣伝活動として、地球・資源分野JABEE認定プログラム情報交換会議を企画・開催(本日)

地球・資源分野のJABEE認定プログラム(9プログラム)

- 島根大学 総合理工学部 地球科学科(2003年度～)
- 東京都立大学 都市環境学部 都市環境学科 地理環境コース(2003年度～)
- 日本大学 文理学部 地球科学科 地球環境学プログラム(2003年度～)
- 北海道大学 工学部 環境社会工学科 資源循環システムコース(2003年度～)
- 山口大学 理学部 地球圏システム科学科 地域環境科学コース(2004年度～)
- 茨城大学 理学部 理学科 地球環境科学コース地球科学技術者養成プログラム(2006年度～)
- 千葉大学 理学部 地球科学科(2006年度～)
- 新潟大学 理学部 理学科 地質科学プログラム地質エンジニアリングコース(2006年度～)
- 富山大学 都市デザイン学部 地球システム科学科(2021年度～)

※ 最大で11の認定プログラムの年度が存在したが、3プログラムは継続申請せず。

分野別のJABEE認定プログラム数

表2 分野別認定プログラム数 [学士、修士]
2001-2022 累計及び 2022 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]

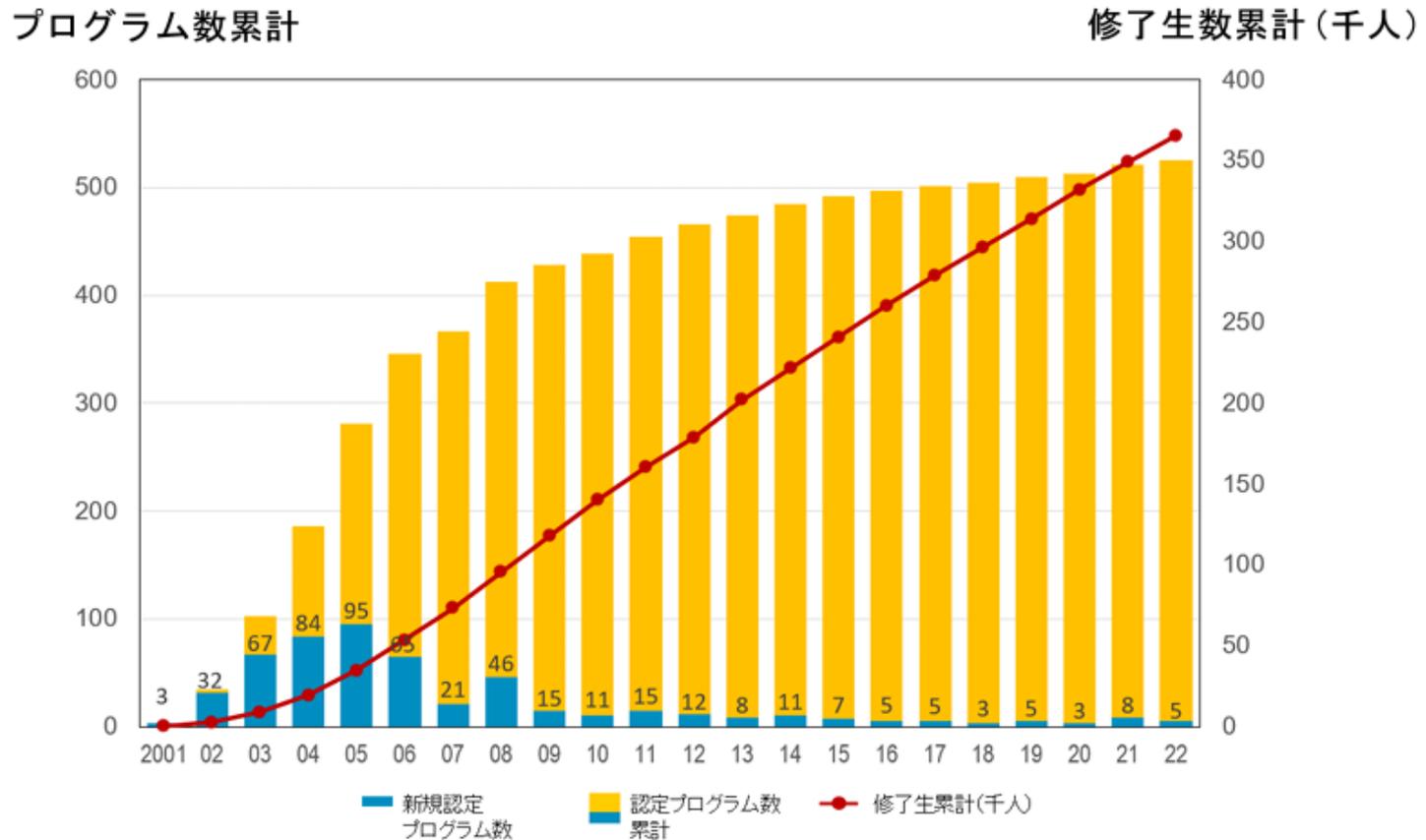
分野	2001-2022 累計(現在)
化学および化学関連分野／化学及び関連のエンジニアリング分野	55 (17)
機械および機械関連分野／機械及び関連の工学分野	87 (43)
材料および材料関連分野／材料及び関連の工学分野	15 (7)
地球・資源およびその関連分野／地球・資源及び関連の工学分野	12 (9)
情報および情報関連分野／情報専門系学士課程(CS、IS、IT・CSec、情報一般分野)	44 (18)
電気・電子・情報通信およびその関連分野／電子情報通信・コンピュータ及び関連の工学分野／電気電子及び関連の工学分野	66 (33)
土木および土木関連分野／土木及び関連の工学分野	69 (57)
農業工学関連分野／農業工学及び関連のエンジニアリング分野	19 (13)
工学(融合複合・新領域)関連分野／工学(融合複合・新領域)及び関連のエンジニアリング分野	66 (32)
建築学および建築学関連分野／建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野 建築系学士修士課程(建築設計・計画系分野)	46 (29)
物理・応用物理学関連分野／物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	6 (4)
経営工学関連分野／経営工学及び関連のエンジニアリング分野	6 (3)
農学一般関連分野／農学一般及び関連のエンジニアリング分野	13 (11)
森林および森林関連分野／森林及び関連のエンジニアリング分野	5 (3)
環境工学およびその関連分野／環境工学及び関連のエンジニアリング分野	8 (2)
生物工学および生物工学関連分野／生物工学及び関連のエンジニアリング分野	9 (5)
総計	526 (286)

出所：
2023 年度認定審査
サマリーレポート
<https://jabee.org/accreditation/summary-report>

- 認定継続辞退による認定プログラム数の減少が続いているので、JABEEで対策を検討中
- 地球・資源分野では、3プログラムが辞退(大学の合併、JABEE担当者の退職、大学ポリシーの変化による)

JABEE認定数と修了生数の累計

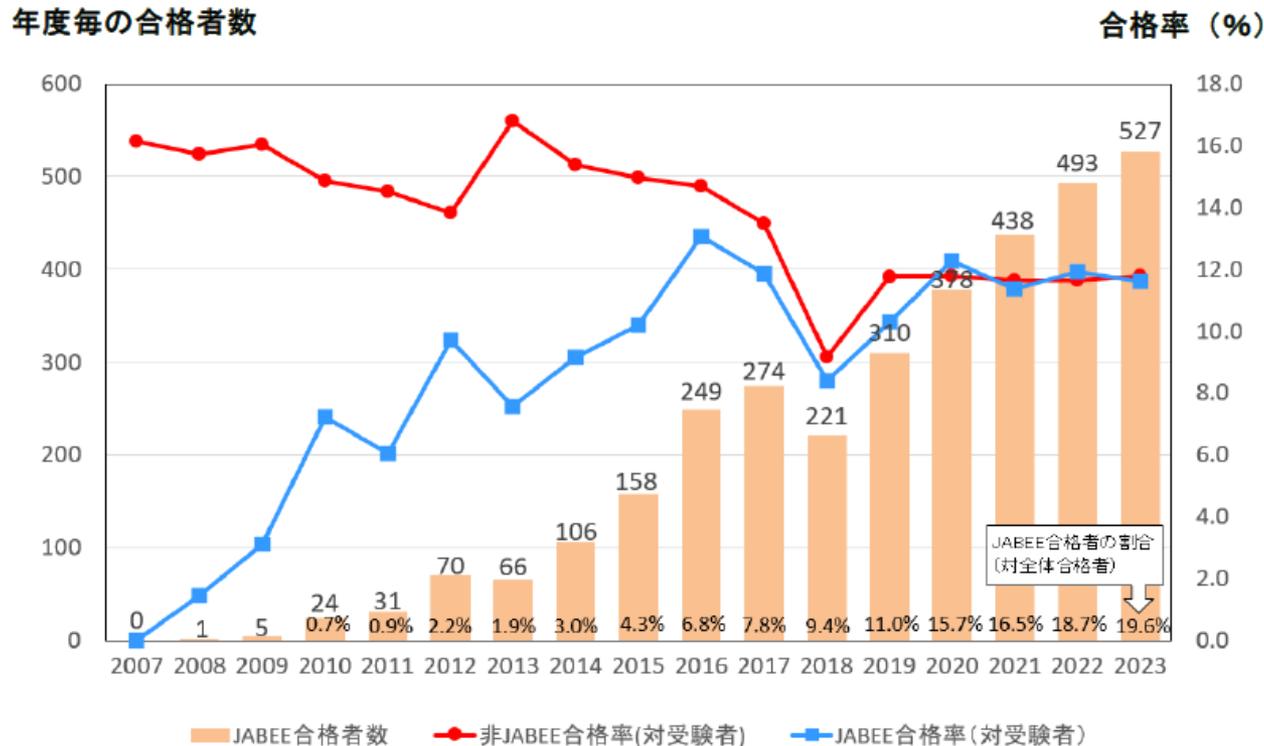
図1 認定プログラム数と修了生数の累計(海外プログラム除く)



注：2023年度はまだ審査が完了していないプログラムがありますので、結果は2024年度のサマリーレポートで報告いたします。

JABEE認定プログラム修了生の技術士第二次試験の合格状況

図3 技術士第二次試験合格者数／合格率の推移



- 2023年度の認定プログラム修了生の合格者数は527名に増加(全体の合格者に占める修了生の割合は19.6%)
- 年代別の合格者で見ると、20代の51%、30代の42%が修了生
- JABEEの認定が若い技術士を生み出す推進力になっている

注1: 「JABEE合格者数」は、技術士第二次試験に合格したJABEE認定プログラム修了者の数を表す。
 注2: 「JABEE合格率」はJABEE認定プログラム修了者の技術士第二次試験の合格率(受験者中の合格者の割合)を表す。
 注3: 「非JABEE合格率」はJABEE認定プログラム修了者を除いた受験者の技術士第二次試験の合格率を表す。

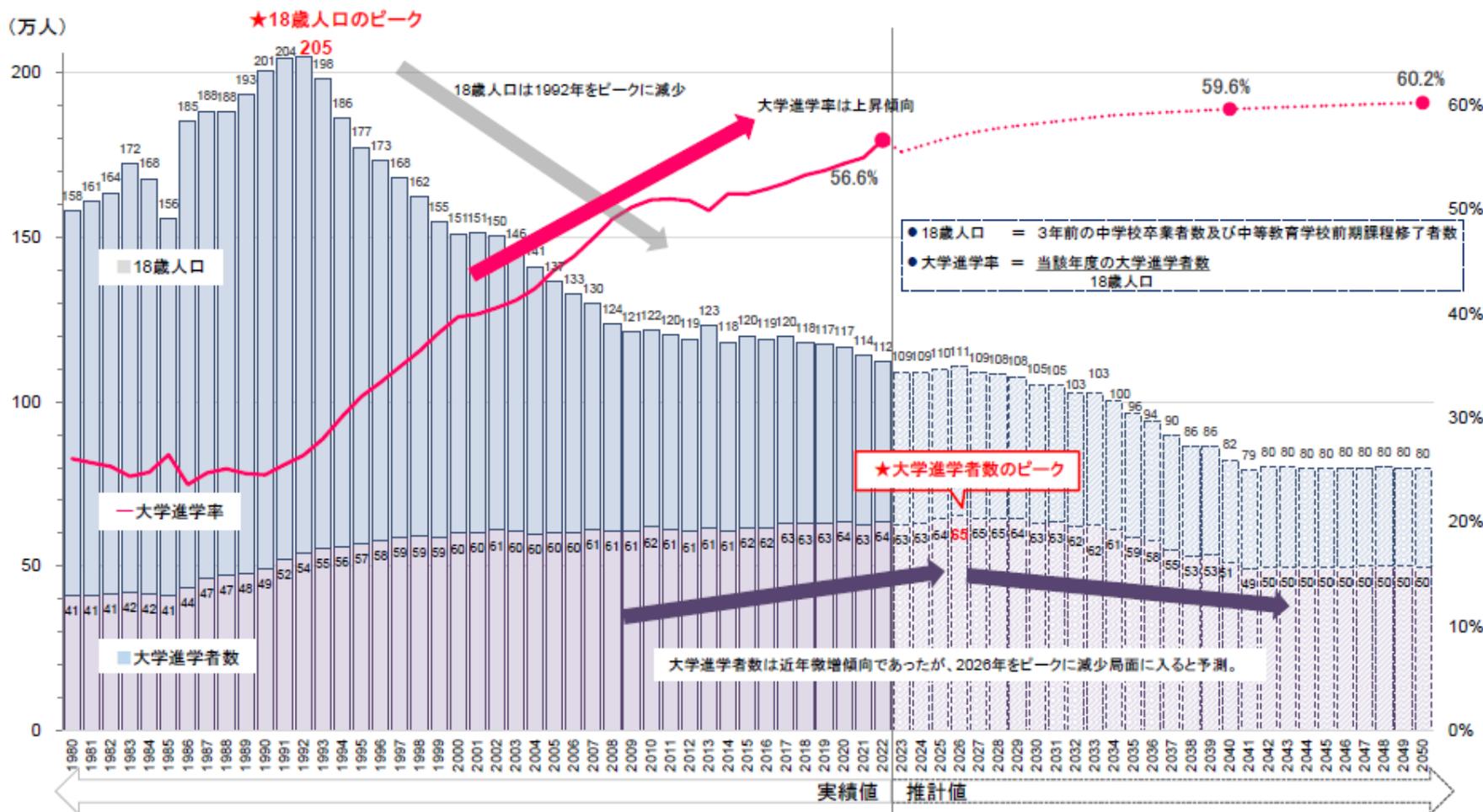
情報交換会議の開催目的

- 当分野では審査協力や情報発信を進めているが、分野に属するJABEE認定プログラムの各教育機関における工夫点や課題などの情報交換が不足している
 - 各プログラムでの取り組みや運営上の課題などの情報交換を行うことで、各認定プログラムの更なる質の向上を図る
 - 当分野における新規参入の教育機関が増加するための基礎情報に資するものとしたい
- 総合討論では、JABEEの当分野が質保証に成功している実例を示す。会場およびオンラインで参加されている先生方から、忌憚のないご意見をお聞かせください。

<参考> 大学進学者数の減少－技術者の育成を魅力あるプログラムで！

大学進学者数等の将来推計について

18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2026年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測される。



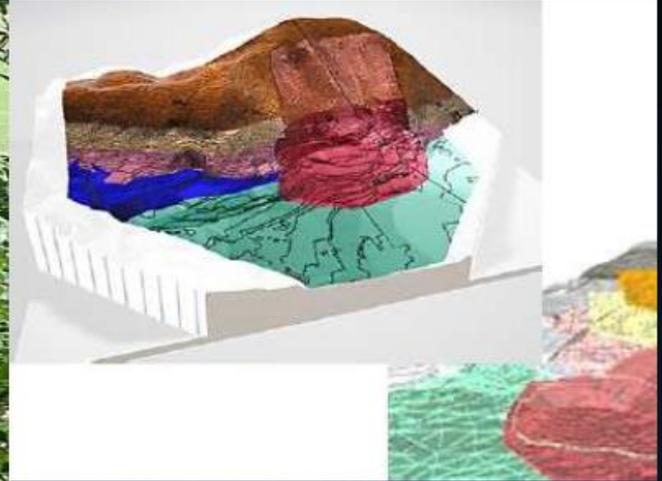
出所：文科省科学技術・学術審議会 関係データ集

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/toushin/icsFiles/afieldfile/2009/05/18/1260184_1.pdf

2024年11月25日JABEE情報交換会



島根大学総合理工学部地球科学科



向吉秀樹・島根大学総合理工学部地球科学科教員一同



地球・資源分野JABEE認定プログラム情報交換会

●開催目的：当分野では審査協力や情報発信を進めているが、分野に属するJABEE認定プログラムの各教育機関における工夫点や課題などの情報交換が不足しているため、各教育機関での取り組みや運営上の課題などの情報交換を行うこととする。この結果、各認定プログラムの更なる質の向上を図り、当分野における新規参入の教育機関が増加するための基礎情報に資するものとしたい。

東京都立大学都市環境学部地理環境学科 鈴木毅彦

2024年11月25日（月）13：30～17：00

地球・資源分野JABEE認定プログラム情報交換会議
@日本大学文理学部（レクチャーホール）

日本大学における取り組み

令和6年11月25日（月）

日本大学文理学部

地球科学科 竹内 真司



HOKKAIDO
UNIVERSITY

北海道大学 工学部 環境社会工学科 資源循環システムコース

地球・資源分野JABEE認定プログラム情報交換会 2024/11/25

北大 廣吉 直樹

山口大学理学部
地球圏システム科学科



茨城大学地球環境科学コース
JABEEプログラム
教育改善の取り組み

2024.11.25

プログラム責任者 長谷川健

千葉大学理学部地球科学科の 研究分野と教育

- ・ 地球表層領域
層序学
生物地球化学
- ・ 地球内部領域
地殻構造学
岩石・鉱物学
地球物理学
- ・ リモートセンシング領域



新潟大学の特徴

「日本海側の大規模総合大学」を
売りにしている（学部数が多い）

人文学部，法学部，経済学部，
創生学部（文理融合の人材育成）
理学部，工学部，農学部
医学部，歯学部，保健学部

最近，学士課程教育で学位プログラム化を
進め，学位認定基準を明確化し，副専攻の
整備（メジャー・マイナー制）も行ってい
る。



新潟大学理学部理学科

定員200名 一括入試で選抜し，2年次後期にプログラム配属

配属は学生の希望を重視

数学，物理学，化学，生物学，地質科学，自然環境科学，フィールド科学人材育成
の7プログラム

地質科学プログラム **地質エンジニアリングコース（JABEE認定コース）**

新潟大学に5つあるJABEE認定プログラムのひとつ（他の4プログラムは工学部）

富山大学都市デザイン学部
地球システム科学科
プログラムの特徴①工夫点

- 社会の要求事項を把握するための施策
 - 地元の土木・地質系企業で構成される学科協力会との相互交流
 - 地質調査業協会・測量設計業協会加盟企業に働きかけ、学科協力会に加入いただいている
 - 加盟企業は16社
 - 会費は交流会や、実習のバス代に充てている



地球・資源分野JABEE認定プログラム 情報交換会議（2024年11月25日）

総合討論 話題提供資料

「分野別質保証を共通指標の評価項目に」

地球・資源分野JABEE委員会委員 坂口有人
（山口大学理学部教授）

大学教育「質保証」の歩み

国民からの不信感

昔は入試のレベルが大学教育の質を表す「入口による質保証」だった。しかし90年代以降、大学教育に対する不信感が広がり「大学とは何か」（中央教育審議会、1998）、「日本の学士が、いかなる能力を証明するものであるのか」（中央教育審議会、2008）といった疑義が表立って呈されるようになった。

グローバル化（国際通用性）

大学も国際競争の時代を迎えており、世界に通用する国際認証を受けなければ、海外から優秀な留学生を確保することも、日本の卒業生が海外で活躍することもできない。

社会ニーズを踏まえた学修者本位の教育

大学は社会ニーズと向き合うこともなく「個々の教員が教えた内容」（中央教育審議会、2018）を教える、いわば「たこつぼ」（文部科学省、大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会、2017）の教育が行われていると批判されるようになった。

大学は「何を教えるか」より「何ができるようになるか」（中央教育審議会、2008）というコンピテンスを明確にし、社会に対し説明し納得が得られる体系的な内容（中央教育審議会、2018）を示すことが求められるようになった。

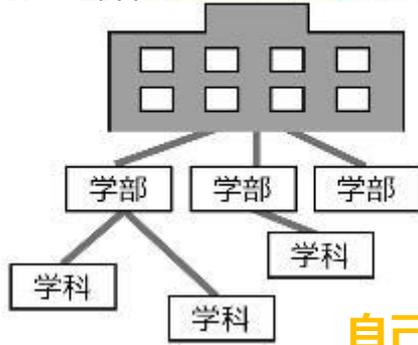
第三者評価

90年代から第三者評価の必要性が指摘されてきた（中央教育審議会、1998）。国立大学の独法化に踏み切ったいわゆる「遠山プラン」（経済財政諮問会議、2001）の大学改革三本柱のひとつが第三者評価である。その後も繰り返し第三者評価の重要性が指摘されてきたが実質化されていない。現在の大学評価は、自己点検により律する方針。

内部質保証

大学全体が対象で法的適合性などの外形評価。
詳細は自己点検。

大学機関別認証評価 **大学** ← **審査対象**



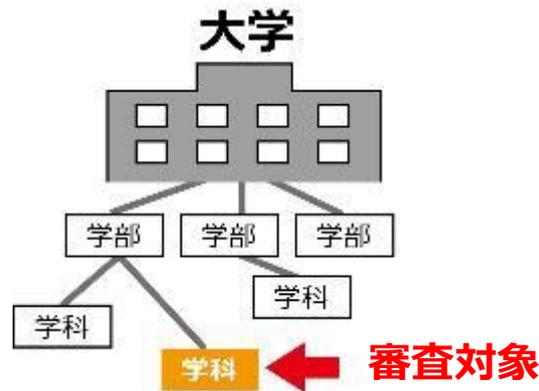
自己点検のみ



分野別質保証

一部の学科等

学科等を対象とした第三者ピアレビュー。
授業一つ一つまでが対象。

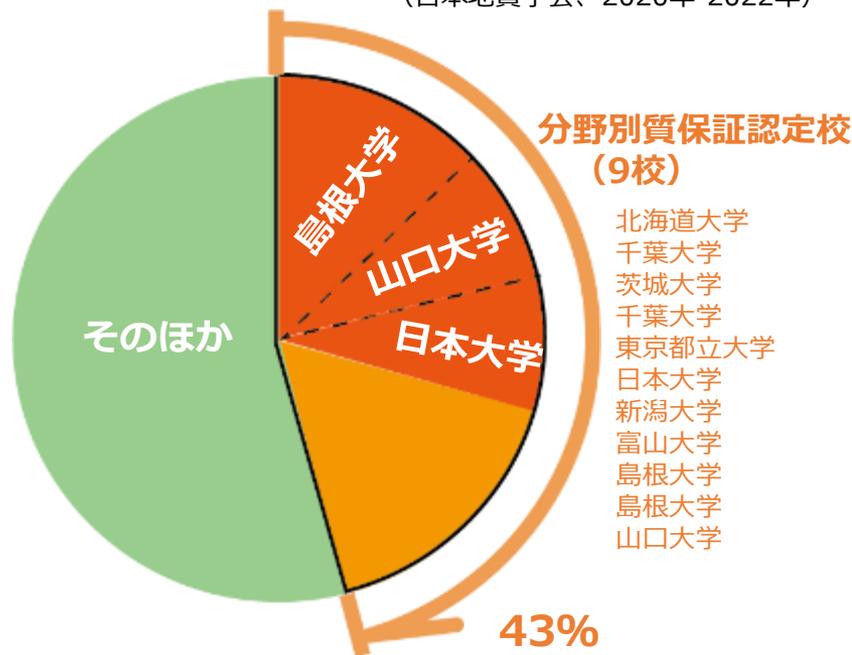


文部科学省は内部質保証（左）を推進している。分野別質保証（右）にまで取り組んでいる学科等は一部にとどまる。両者の項目は同じだが、外部審査の有無により実質化が全く異なる。

分野別質保証の成功事例（JABEE：地球-資源分野）

地質技術者育成の実績 全国40校にアンケート調査

全国の大学から地質系専門職に就いた学生の出身校
(日本地質学会、2020年-2022年)



地質系の学科等のある大学が全国に約40校ある。最近では地質の専門職に就かない卒業生が多い。その中でも、JABEEの審査に合格している9校が地質技術者の半数近くを輩出している。これは分野別質保証が社会に役立つ人材育成の中心的役割を果たしている実例である。

厳格な審査がもたらすもの

■ 社会の要請する水準の学習・教育到達目標になっているか説明が求められる。

→ **大学教育のあるべき姿について緊張感を持って探求し続け、学習・教育到達目標を自ら定義する。**

■ 学習・教育到達目標には修得すべき能力やそのレベル、評価方法などを具体的に記述し、それを学生と共有することが求められる。

→ **ゴールの明確化により、学生、保護者、採用企業からの信頼度があがる。「学士」が何を意味するのかわかる。**

■ 学習・教育到達目標を実現するためのカリキュラム作りが求められる。

→ **毎週の授業や実習のひとつひとつが緻密に連携して、システムティックなカリキュラムとなる。**

■ 単位の厳格な認定が求められる。

→ **レポート課題や試験問題の出題意図、採点基準が明確化される。**

■ 学修成果が審査される（ボーダーラインの学生の答案やレポートの保存）

→ **全員が所定の水準をクリアするように徹底した指導（追試、レポート再提出、補講の徹底）が行われる。**

■ 外部アドバイザー委員会等を継続的に開催することが求められる。

→ **社会ニーズの変化に呼応した継続的教育改善が行われる。**

まとめと提案

【まとめ】

- 第三者評価は90年代から求められてきたが、未だに大学教育に広く取り入れられていない。「点検あって評価なし」という批判は当時からあった。
- 分野別質保証（第三者ピアレビュー）は大学教育の質を劇的に向上させる21世紀型の大学教育である。
- しかし分野別質保証は特定の分野にあるのみ。全面的に取り入れられる見込みがなく、文科省も内部質保証を主として進める方針。

【提案】

- 大学の規模適正化が進められるが、分野別質保証を取り入れているプログラムこそ優先的に残すべきである。
- 大学評価の共通指標に分野別質保証の受け入れ状況を加えて欲しい。
たとえ各大学が内部質保証を中心に据えていても、厳格な分野別質保証を実施する学科等が増えていけば、内部質保証のレベルも上がることが期待される。